



平成 27 年 9 月 9 日

日本伝統文化塾「日本の神様と舞い踊ろう～地域に根付く神楽と神舞～」 の開催について

公益財団法人福岡文化財団（理事長 久保田 勇夫）は、より豊かな地域社会づくりに寄与することを目的とした様々な事業を行っており、その一環として、日本の伝統芸能を紹介する「日本伝統文化塾」を、平成 19 年より毎年開催しています。

平成 27 年度は、地元各地で傳承されている「神楽」や「神舞」などの伝統芸能を、一般市民の皆さまに鑑賞していただくイベントを西日本シティ銀行との共催により、下記のとおり開催しますので、お知らせします。

記

■ 開催概要

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|-----------|------------|-----------|----------|--------------|----------|-------------|---------------|-----------|-------------|------------|--------|------------|------------|----------|--------|----------|--|
| 日 時 | 平成 27 年 11 月 3 日（火・祝） 13 時 00 分～15 時 00 分（予定） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 会 場 | 大濠公園能楽堂（福岡市中央区大濠公園 1-5） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内 容 | <p>○ 出演団体及び演目</p> <table border="0"> <tr> <td>つくし神舞</td> <td>宮地嶽神社（福津市）</td> <td>[演目]つくし神舞</td> </tr> <tr> <td>みこまい 巫女舞</td> <td>太宰府天満宮（太宰府市）</td> <td>[演目]飛梅の舞</td> </tr> <tr> <td>いしばかぐら 飯場神楽</td> <td>大山祇神社（福岡市早良区）</td> <td>[演目]神供、敷蒔</td> </tr> <tr> <td>いわとかがら 岩戸神楽</td> <td>伏見神社（那珂川町）</td> <td>[演目]荒神</td> </tr> <tr> <td>うみかぐら 宇美神楽</td> <td>宇美八幡宮（宇美町）</td> <td>[演目]天の磐戸</td> </tr> <tr> <td>くさげ江太鼓</td> <td>（福岡市中央区）</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 司会：神田 紅 氏 ○ 招待者数：400 名（要事前申込 全自由席 入場無料）</p> | つくし神舞 | 宮地嶽神社（福津市） | [演目]つくし神舞 | みこまい 巫女舞 | 太宰府天満宮（太宰府市） | [演目]飛梅の舞 | いしばかぐら 飯場神楽 | 大山祇神社（福岡市早良区） | [演目]神供、敷蒔 | いわとかがら 岩戸神楽 | 伏見神社（那珂川町） | [演目]荒神 | うみかぐら 宇美神楽 | 宇美八幡宮（宇美町） | [演目]天の磐戸 | くさげ江太鼓 | （福岡市中央区） | |
| つくし神舞 | 宮地嶽神社（福津市） | [演目]つくし神舞 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| みこまい 巫女舞 | 太宰府天満宮（太宰府市） | [演目]飛梅の舞 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| いしばかぐら 飯場神楽 | 大山祇神社（福岡市早良区） | [演目]神供、敷蒔 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| いわとかがら 岩戸神楽 | 伏見神社（那珂川町） | [演目]荒神 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| うみかぐら 宇美神楽 | 宇美八幡宮（宇美町） | [演目]天の磐戸 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| くさげ江太鼓 | （福岡市中央区） | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主 催 | 公益財団法人 福岡文化財団 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 共 催 | 株式会社 西日本シティ銀行 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 後 援 | 福岡県、福岡県教育委員会、（公財）福岡市文化芸術振興財団、西日本新聞社 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鑑 賞 申込方法 | <p>(1) 申込み方法：ハガキ、FAX、E メール (2) 記載内容：①氏名、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤参加人数 （お申込み 1 件につき 5 名までお申込みできます） (3) 申込先：〒810-0001 福岡市中央区天神 1-4-1-13F 西日本新聞メディアラボ内 「日本の神様と舞い踊ろう」係 FAX:092-731-2232 E-mail: info@bunka-zaidan.or.jp (4) 締め切り：平成 27 年 10 月 16 日（金）（当日消印有効） ※招待者には招待券を送付します。応募多数の場合は抽選とし、招待券の発送をもって発表とさせていただきます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

以上

本件に関するお問い合わせ先
公益財団法人福岡文化財団 事務局 北川・清家 TEL 092-473-6777

【日本伝統文化塾とは】

より多くの方々に、日本伝統芸能に気軽に触れる機会をもって欲しいとの願いをこめて、2007年より様々なジャンルの伝統芸能を紹介しています。今回は、地域に根付いている「神楽」や「神舞」を、わかりやすい解説付きで紹介します。

◆参加団体のご紹介(順不同)◆



つくし神舞 宮地嶽神社 (福津市) 【演目】つくし神舞

創建以来1600年を数える「安曇族」の聖地宮地嶽神社に8世紀前半から奉納されていたとされる「つくし神舞」は神官だけが舞うことが出来る九州王朝の宮廷舞です。日本の舞では目にすることがない跳躍や回転の振付など独特の足づかいが特徴です。

現在では毎年10月22日、宮地嶽神社拝殿前に特設舞台を作り九州王朝の神舞「つくし神舞」が奉納され、地元の人たちはじめ多くの観光客を魅了しています。



巫女舞 太宰府天満宮 (太宰府市) 【演目】飛梅の舞

「飛梅の舞」は、永年宮内庁楽部長として舞の復興、舞楽の創作や全国の神社の社頭で奉奏された「浦安の舞」の創作など、我が国の神楽舞の復興や作曲・作舞・普及に尽くされた多忠朝氏の長女静子さんが太宰府天満宮のために作曲された曲です。

昭和30年代後半に、「飛梅の舞」を作曲して頂き、昭和42年11月、太宰府天満宮神前で奉納演奏されました。舞う巫女たちはそれぞれに梅の枝を手にして優雅に舞い菅原道真公を偲びます。



飯場神楽 大山祇神社 (福岡市早良区) 【演目】神供、敷蒔

飯場神楽は、明治25年(1892)当時、悪病が流行したため、氏子の安全を願おうと神楽組を結成し奉納したのが始まりと伝えられています。平成10年、神楽の衣装・面・道具など一式が福岡市の「民族文化財・有形民俗文化財」に指定され、一度途絶えていた神楽も平成16年、地元有志の努力によって復活を果たし「飯場神楽保存会」として活動を再開。現在は、成人13名、子ども4名の会員が、月に2回、内野公民館曲淵分館で練習に励んでいます。



岩戸神楽 伏見神社 (那珂川町) 【演目】荒神

伏見神社に奉納される岩戸神楽は、関ヶ原の戦いの後、黒田長政の筑前入以降始まったと言われています。明治維新までは神職によって舞われていましたが、明治13年に山田村の氏子に伝承され、「珍楽舎」と名付けた保存会が現在も活発な活動を続けており、昭和29年福岡県無形文化財第1号の指定を受けています。

岩戸神楽の命和理(曲目)の九番「荒神」と十二番「問答」は、黒鬼・赤鬼が子供をさらって神殿に入ります。鬼に抱かれた子供は無病息災、元気に育つと言われています。



宇美神楽 宇美八幡宮 (宇美町) 【演目】天の磐戸

宇美神楽の由来については諸説ありますが、1798年(寛政10年)の「筑前続風土記付録」にも宇美神楽についての記載がみられます。宇美八幡宮には神楽専任の神職がおり、お祭りの度にご奉仕していましたが、明治34年、当時の神職青木輪之助氏と氏子各位により、現在の神楽座の前身が再興されて現在に至っています。昭和48年、福岡県の無形文化財の指定を受け、小林作五郎氏を会長に町内有志の方により宇美神楽保存会が組織され神楽座の維持・運営に当たっています。現在、神楽座の座員は17名、上演演目は14です。



草ヶ江太鼓 (福岡市中央区)

草ヶ江太鼓は、青少年の健全な育成と地域の発展を目指し、日本古来の楽器である和太鼓を学び伝えることで、日本の伝統文化とふれあう機会を多くの人々に提供することを目的に草ヶ江校区の有志が集まり、平成25年11月に発足致しました。

和太鼓の技術向上だけでなく、子供たち一人一人が和太鼓を通じて礼儀や感謝の心を身に着ける人格形成に寄与することを目指しています。和太鼓の魅力をより多くの方々と共に味わうことで、地域発展の一助になれば幸いです。



司会:神田紅

1952年生まれ。早稲田大学中退。1979年二代目神田山陽に入門。89年真打昇進。新ジャンル「芝居講談」を開拓。02年に紅一門を旗揚げ。故郷福岡で講談教室「福岡紅塾」を開講するなど国内外で活発に活動、国宝金印のレプリカを小学校に贈る運動を続け20年になる。14年4月日本講談協会会長に就任。現在理事。